

34

地理

教科書 P.86～P.87

アフリカの農業からみえる課題

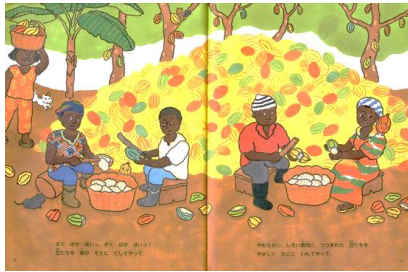
学習の目標：なぜカカオの生産者がチョコレートを食べられないのか考察し、理解できる。

授業の流れ：

個人で予想をたて考える
【5分】ガーナの実態を知る・スライド
【10分】解決策を班で考える
【10分】

◎甘いけど甘くないアフリカの状況

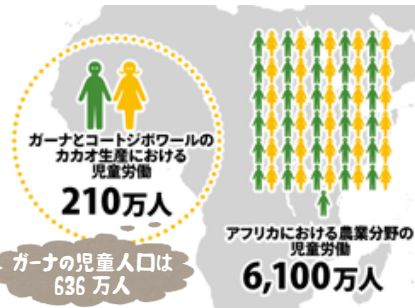
予想



◆ なぜカカオの生産者がチョコレートを食べられないのだろう？

①：欧米諸国の植民地であった国々が単一作物を栽培するために開発された大規模農園

◎ガーナのカカオ栽培の実態



◆生産者がチョコレートを食べられるようにするためには？【考察】

② 不平等をなくし、労働や生産される製品に見合った正当な価格で、継続的に取引をする仕組みのこと

◆ なぜカカオの生産者がチョコレートを食べられないのだろう？ 小学生に説明するようにまとめてみよう！

コメントの追加 [孝浩1]: なぜ貧しいのか

・ガーナでは商品作物であるカカオ豆が栽培されているが価格の変動が大きくプランテーションを営んでいる人が利益を独占しているため。

→ 前回の学習とつなぐ。植民地時代の影響はいまだに続いている

未だに商品作物や鉱産資源に頼る経済。

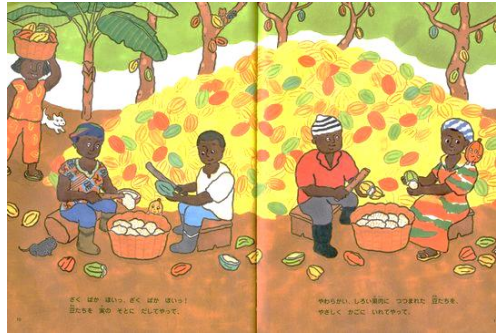
どうやって脱却すべきか？

資料 甘いけど甘くない。カカオ農家の実態

①：日本は7割のカカオ豆をガーナから輸入



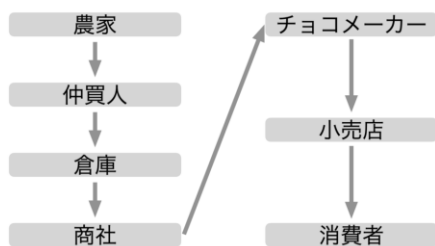
②：ガーナのカカオ農家は1日7€の給料で働く



③：安い労働力を求め、児童労働が行なわれる



④：農家は高価なチョコレートを食べられない



⑤：農家から私たちの手元に届くまでに多くの仲介人を挟むことで多くのマージンが発生する。

※ 農家はカカオ豆の価格を自分たちで決めることはできない。